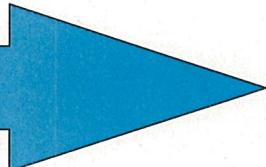


平成28年度 滝尾中学校 学力向上プラン

H28.9月改定

	1年生	2年生	3年生
実態	<p>①授業への取り組みはよく、集中して学習している。話の要旨を聞きとったり、文章にまとめたりする力がやや不足していると感じる。授業道具や提出物等の忘れ物がやや多い。</p> <p>②家庭学習ノートには毎日取り組んでいる。学習内容が常に同じ生徒があり、復習の仕方やテスト勉強の仕方をさらに丁寧に指導する必要性を感じる。</p>	<p>①学習規律が定着しており私語や居眠りはほとんど見られない。</p> <p>②低学力の生徒が多く、学習内容を応用する力に欠ける。学習に対する甘さも見られ、家庭学習の時間が短い生徒も多い。</p> <p>③基本的な内容を活用させることができ苦手で、過去の学習内容と繋げて思考するという練習ができていない現状が見られる。</p>	<p>①授業や家庭学習などやらなければならないことに眞面目に取り組むことができる。</p> <p>②基本的な問題はよくできるが、文章やグラフなどを読み取って答える問題がやや苦手である。</p> <p>③できない問題にぶつかった時、自分で調べたり、質問したりしてわかるまで粘り強く取り組む生徒が少ない。</p>
方策	<p>①生徒指導の三機能を意識した、話を互いに聞いたり、文章にまとめて表現したりする授業を推進する。</p> <p>②学力の基礎となる読む力と書く力をつけるため、朝自習・朝学習の時間に文章視写に取り組みを充実する。</p> <p>③家庭学習ノート「チャレンジノート」を用いて家庭での自主学習に取り組ませ毎日担任が点検し、必要に応じて個別指導を行う。</p> <p>④朝学習の時間を使って5教科の小テストを実施し、問題に慣れさせ基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>①生徒指導の三機能を意識した授業を取り入れ、意欲的に取り組む姿勢を培う。</p> <p>②読解力をつけるために、月・水・金曜日の朝学習で読書に取り組み、読書後、表現力を高めるためにその内容を要約し、まとめてさせる。</p> <p>③課題プリントの内容を火・水曜日の朝学習で自律ノートに復習を行い、木曜日の朝に小テストを実施し、定着を図ることを継続する。</p> <p>④各自自律ノートを購入し、毎日その日の学習内容を2ページ復習することを継続する。</p> <p>⑤朝学習の時間を使って5教科の小テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>①生徒指導の三機能を意識した授業等で、ペア学習やグループ学習を活用し、学び合い学習を進め意欲を高める。</p> <p>②授業や家庭学習の課題を用いて、記述問題や発展問題に取り組ませることによって、応用力をつけさせる。</p> <p>③家庭学習は毎日「新研究」を1教科ずつ自学ノートとともに解かせる。各教科も予習や復習の課題を出して、実力をつける取り組みを充実する。</p> <p>④2学期以降は、「新研究」の3年1学期の復習と、1, 2年の2回目の復習に取り組ませる。11月12日の全県中3学力テストを目指とする。</p>
学力補充	<p>①各教科で、課題の提出や学習プリントの状況から、遅れが見られる生徒に、放課後の学力補充学習を行っていく。</p> <p>②定期考査前に「学び合い学習」を行い、基礎的内容の理解が遅れている生徒の支援を行う。</p>	<p>①やり直しプリントの裏付けを徹底し、未提出者については居残り学習日を設定して取り組ませる。</p> <p>②今後も、朝学習の時間に5教科の学力補充学習を進めていく、テスト前には、質問教室を開いて個別指導を行う。</p>	<p>①二者面談等を利用して、学習方法を指導し、個別に学力補充を行っていく。</p> <p>②朝学習の時間の中で、「スタディ」や「毎日ノート」の取り組みに対する個別支援を行う。</p>

確かな学力の向上



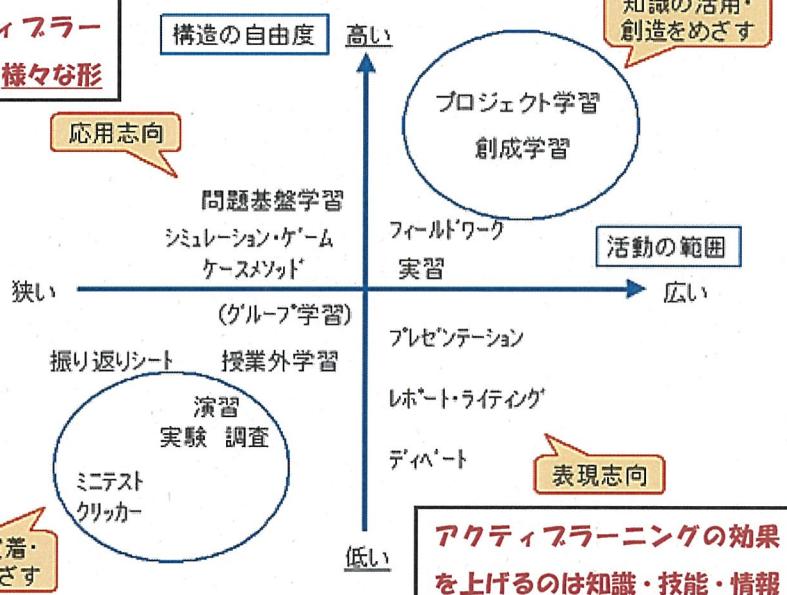
久遠の理想 II

先生向け通信 号外 校内研修用 文責 佐藤

アクティブとは、

「活動的な・積極的な・意欲的な」という意味 アクティブラーニングは、汎用的(幅広く応用可能な)能力育成をめざす。

思考を活性化する
「アクティブラーニング」の様々な形



教員からの一方向的な講義形式の教育とは異なり、生徒の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的であることによって認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法。

平成28年度滝尾中学校

- ・学習規律の確保
- ・学習環境の整備
- ・そして、「魅力ある授業」
今日のめあて等の明示
一人一人を大切にした活動
板書の構造化と工夫
学び合い、言語活動の充実,
発問の工夫、発表ルール
授業で勝負する、私たちは、
教科の専門家・プロである

滝中スタンダード

指導略案の「ねらい」を、生徒にとっての「めあて」に変換し、『めあて』又は『課題』として、確実に生徒の届け、意識させること（今日のめあて等の提示100%を目指してください。）
・問題（課題）解決的な展開を仕組む。（講義式だけではダメです、アクティブ！に）

【生徒指導の三機能を生かした授業づくり】

自己決定の場の設定



自己存在感を与える場の設定



共感的人間関係を育む場の設定



- ・自ら課題をみつけ、それを追究し、自ら考え、判断し、表現する授業（問題解決的な展開の授業）
- ・「選択」「判断」のある授業
- ・話し合いや交流の前に、まず、自分の考え方、感じ方をもって臨んでいる授業

- ・一人一人が学ぶ楽しさや成就感を味わえる授業
- ・学ぶ意義や価値、必要感のある課題が設定されている授業
- ・目的が明確な学習活動
- ・自分の考え方や感じ方を書いたり話したりして、みんなの前で示す場面がある授業
- ・学習の成果が実感できる振り返り活動がある授業

- ・互いに認め合い、学び合うことができる授業
- ・友だちの考え方や感じ方をまず、受容的に聞き取る（受け止める）授業
- ・話し合い等交流活動の中から新しい考え方方が生まれ、話し合って良かった、交流して良かったと実感できる授業
- ・もたれかかるのではなく、一人ではできないことも分担したり協力したりすることで成し遂げられる喜びを実感できる授業

授業の中でのICT機器の活用に、ぜひぜひチャレンジしてください！



久遠の理想 II

先生向け通信第32号 平成28年6月17日 文責 佐藤

ユニバーサルデザインの良さを取り入れた授業は、すべての生徒にとって、あると便利な支援を行うことで「わかる、できる」を保障する授業です。

ユニバーサルデザインに基づく授業づくり 滝中5つのポイント

環境の工夫 (UD授業 ポイント1)

生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を整える

①教室環境の整備 (不必要的情報を遮断する)

- 何をどこに片付けるか明確にする。 (何がどこにあるかわかる)
- 教室の前面を意識的にすっきりさせる。
 - ・不必要的掲示を取り除く。・黒板の周囲に大量の掲示物を貼らない。

②提示の工夫

- 掲示物をカテゴリー別に分ける。

③時間の構造化 (見通しがある)

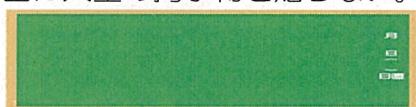
- 1日のスケジュールや1時間のスケジュールを提示する。

④学習内容の構造化 (何を学習しているかがわかる)

- 学習の目標やねらいを分かりやすく示す。(今日のめあて提示有効性)

⑤教室のルール

- 学習姿勢に気を付けるように、具体的に指示する。



「めあて」・「課題」の2点を毎回セットするのは、50分授業では難しい。理数科目は、「課題」のほうがピタリくる。ならば、『タキちゃんボード』を『課題』に書き換える!

ねらい

教師のもの

職場体験のお礼の手紙を書くことを通して、伝えたい事柄を明確にして文章の構成を工夫する力を高める

めあて

生徒のもの

感謝の気持ちを伝えるために、構成を工夫して手紙を書こう

課題

感謝の気持ちを伝えるには、どのような構成にすればよいか?

展開

感謝の気持ちが伝わる手紙を数通読ませ、共通点を探る…

まとめ

〇〇〇な構成が効果的である

振り返り

自分の学びを振り返る

評価規準(A・B・C)

伝えたい気持ちにふさわしい具体的なエピソードを効果的に盛り込んだ手紙形式の構成に沿って、感謝の気持ちを伝えている

展開

構成メモを作成し、下書きをする

振り返り

自分の学びを振り返る

教師が視点を与える

型にこだわるのではなく、教科の特性や単元の展開、本時のねらい等に応じて適切に「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を設定することです。生徒の思考の流れにそった、本当に力を付けられる展開はどうあればよいのかを考えることが大事です。

久遠の理想 II

先生向け通信 第64号 9月14日 文責 佐藤

築城3年、落城3日…、何度も伝えている言葉です。5つの当たり前が自然なこととして身についている多くの生徒たち…、学びに向かう力は、特別活動によって培われるものが多くあります。

視点3 基盤を大事に「築城」継続

下図は、思考力・判断力・表現力を育成するための「授業改善の視点1～視点3」です。

滝尾中学校の最近の授業では、視点1と視点2を大切にして活用力を育成するために、

- ① 考える場、考え合う場の充実 『生徒指導の三機能の授業への取り入れ』等々
- ② 学びや学びから考えたことを表現する場の充実 「アクティブラーニング」等々
- ③ 言語活動の充実 が意図的に図られています。 しかしながら、その基盤として絶対に必要なのは、土台の位置に記している視点3の①②③です。特に③学習規律の定着が壊れては、生徒たちに、教科担任として「つけなければならない力」をはぐくむことはできません。

